

(1) 倉吉市及び中心市街地の現状、課題について

(1) - 1. 倉吉市の現状、課題

分析の視点	現況の状況	発生している問題、懸念される問題
<p>1) 人口構造 (定住人口)</p> <p>①倉吉市の人口推移 (年少人口、生産年齢人口、高齢人口)</p> <p>②倉吉市の高齢化率の推移</p> <p>③将来人口推移</p> <p>④人口動態、県外県内への転出入</p>	<p>1) 人口構造 (定住人口)</p> <p>①年少人口、生産年齢人口が一貫して減少。</p> <p>②前期高齢者(75歳未満)は2020年以降一貫して減少の見通し、対して後期高齢者(75歳以上)は、2030年まで増加を続ける。</p> <p>③高齢化率は右肩上がりに上昇。</p> <p>④平成17-19年に、県外へ人口が大幅に流出(社会減)近年は自然減が顕著。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口減少による経済生産力低下の懸念。 後期高齢者の増加に伴う、高齢者福祉需要の増大。 高齢化率の上昇による、コミュニティ機能の弱体化。
<p>2) 交流人口・昼間人口</p> <p>①主要観光施設の入込客数の推移</p> <p>②通勤・通学者数</p> <p>③バスの乗降客数推移</p>	<p>2) 交流人口・昼間人口</p> <p>①赤瓦一号館、倉吉ふるさと物産館は、近年緩やかに減少。鳥取二十世紀梨記念館はやや右肩上がりに上昇。</p> <p>②倉吉市は昼間人口比率が鳥取県の4市で最も高い。居住者の市内での就業率が高く、周辺市町村(湯梨浜町、北栄町、琴浦町、三朝町、鳥取市)から通勤通学者を吸引している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少時代に経済活性化として期待される観光産業の伸び悩み。
<p>3) 産業</p> <p>①事業所数・従業者数の推移 (全産業、卸売・小売業、宿泊業・飲食サービス業)</p> <p>②業種構成</p> <p>③商品販売額の推移</p> <p>④大規模小売店舗数</p>	<p>3) 産業</p> <p>①倉吉市の事業所数は減少、従業者数は増減を繰り返しながら横ばい傾向。卸売・小売業の事業所数・従業者数は年々減少。サービス業は年々増加。</p> <p>②医療・福祉の従業者が増加傾向にあり、占める割合も高い。</p> <p>③商品販売額は、平成9年をピークに右肩下がり。</p> <p>④大型小売店舗は上井地区(駅北ロードサイド)の立地が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (雇用創出力の観点では、定住人口の減少等に比べて安定。) 都市型産業とされる卸売・小売業や宿泊・サービス業は停滞する傾向。 (人口減少や生産年齢人口減少傾向に呼応して商品販売額が減少。) (ロードサイド型大型店舗の立地により、中心部が空洞化。)
<p>4) 建築ストック、インフラ</p> <p>①住宅数の推移</p> <p>②空き家数</p> <p>③空き店舗数</p> <p>④土地利用現況、建物利用現況</p>	<p>4) 建築ストック、インフラ</p> <p>①住宅数は年々増加している。</p> <p>②打吹公園通り、銀座商店街の空き店舗率は上昇傾向が顕著。平均空き店舗率は平成21年～25年までほぼ20%前後を横這い。</p> <p>③旧市街地は敷地規模・建物規模が小さいが、新市街地は比較的敷地規模と建物規模は大きい。(土地建物利用現況より)</p> <p>④老朽化した建築物が増加。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空き家、空き店舗の増加による防災・防犯等の問題が局部的に顕在化(成徳地区、明倫地区)。 老朽化建築の増加等による防災等の問題。